TS（トータル・サティスファクション）を目指して　M７

私がＭ先生から学んだこと

校長室担当より

　約４０年前、初任から１３年間、２校目の勤務校では３年間に渡り、御一緒させていただき、今でも心から私が敬愛するMN先生から、本当に多くのことを学びました。温厚で、優しく、温かな笑顔で対応され、生徒からはいつも尊敬と愛着をもって囲まれていました。煙草をよく吸われていたため、時には生徒が健康管理について本気に心配して話にくるほど、愛された先生でした。その先生が、初めて担任をもつ私に学級経営の秘訣として、「授業を大切にすること」を優先事項として伝えてくださいました。この姿勢は、教師として私の根底に染みついています。特に今でも覚えている言葉があります。

　「教師が授業を大切にする姿勢がなければ、生徒が大切にするはずがない。」【※「　　」内はすべてニュアンスで構成　以下同様】

というものでした。当時は、割と緩やかな時代で、個人のやり方に任されている部分も多く、授業に遅れて行ったり、ひどい場合には授業中に教員が食堂で昼食を摂っている先生もいました。先生は、これについて、

　「あの姿を見とる生徒がえらいよね。」と一言のみ。

　生徒に対して面と向かって怒ることも、叱ることもありません。今思えば、一人一人との対話をモットーにされていたのだと思います。当時は、管理型の時代。時には大きな声で怒鳴りつけて、脅迫的に叱り飛ばすことが普通に行われていました。そんな時代に先生は、こう教えてくださいました。

　「厳しく管理して行動させることが正しいとは思えない。行動することが大切なのではなくて、生徒が自分でそうしようと思って行動しないと意味がない。」

生徒に対して、声を荒げる姿を一度も見たことがない基本的な姿勢からもそれを感じ取っていました。私が、時に学習しないクラスの生徒へ強

い指導を行ったときにも、このように話してくださいました。

「勉強に限らず、危機感で煽ってやらせても、効果は続かない。むしろ、あとで生徒が困ることになる。」

そんな先生のクラスでも生徒指導事案は発生していました。提出物を出せない生徒もいました。その際にも先生は決して怒ったり、叱ることはせず、ただただ時間をかけて対話を重ねる姿が私の目に焼き付いています。こんな言葉も覚えています。

「生徒を信じて待てば、必ず本気になる日がくる。」

生徒はそんな教員の姿を見ながら、育っていきます。即時性はないかもしれませんが、こういう姿は生徒の心の成長には大きな影響を与えます。生徒をまず信じる。そして待つ。これを実践することが、実は近道に思えます。（令和６年７月１２日）

４月１日に、先生方へお願いしたこと（確認）

１　人間の生き方のモデルを姿で示す
２　トータル・サティスファクションの実現
３　対話とパートナーシップに基づく行動
４　全教職員で全校の児童生徒を見守るチームへ